

洪水時のダムの役割と操作について

利根川上流部には、国土交通省管理の藤原ダム、相俣ダム、藪原ダム、水資源機構管理の矢木沢ダム、奈良俣ダムがあり、下流の洪水被害の軽減等のために日々維持管理をしています。

ときどき、ダムから水を流すときがあります。
その前には、川沿いのスピーカーやサイレン、国土交通省の車(警報車)でお知らせします。
すぐに川から離れてください。



藤原ダム



相俣ダム



藪原ダム



矢木沢ダム



奈良俣ダム



警報車



表示板



警報局(スピーカー)



警報局(スピーカー・サイレン・表示板)

また、大規模な洪水によりダムに水が貯めきれなくなる場合など、急激に川の水が増えるときにはスピーカーやサイレン、国土交通省の車(警報車)でお知らせします。

川沿いにお住まいの方は、避難が必要になる場合もあります。避難については、昭和村役場の情報に従ってください。

ダムの情報は、インターネットで見ることがきます。

川の防災情報「川の防災情報」 <https://www.river.go.jp/>
利根川ダム統合管理事務所 <https://www.ktr.mlit.go.jp/tonedamu/>
(ダム下流の利根川、赤谷川、片品川の「浸水想定図」については、利根川ダム統合管理事務所ホームページでもまもなく掲載予定です。)

参考: 気象庁ホームページ <http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

お問い合わせ先

国土交通省利根川ダム統合管理事務所 TEL:027-251-2022

昭和村役場 総務課

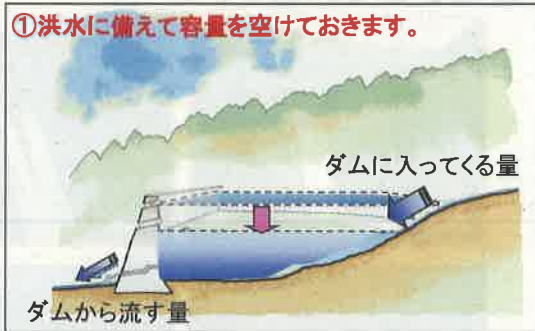
TEL:0278-24-5111

洪水時のダムの役割と操作について

○ ダムによる洪水調節(こうずいちょうせつ)の役割

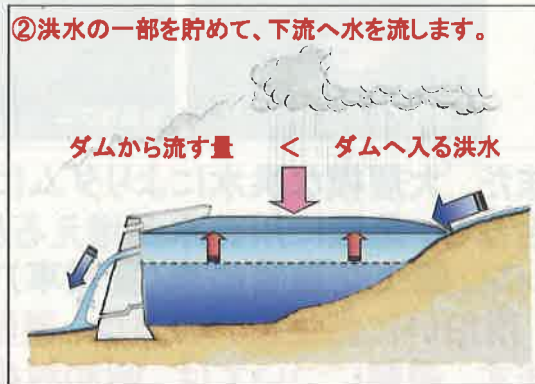
① 洪水に備える

7~9月頃、台風や大雨による洪水の起きやすい季節には、水位を下げています。



② 洪水を貯め込む(洪水調節)

洪水になると、ダムへ流入する洪水の一部を貯水池に貯め、下流に流しても安全な量をダムから放流することで、下流河川の流量増加を軽減させます。



大雨が降り続き、
ダムの水がたまりつづけると...

③ 異常洪水時のダムの操作

これ以上ダムに貯留が出来なくなった場合、ダムに貯まった水はそのままにして、ダムへ流入してくる量と同じ量を下流に放流します。つまり下流河川の流量増加を軽減できなくなります。このような時には、浸水想定区域内にお住まいの方は避難が必要です。



○ ダムから放流する時は...

放流する前のお知らせ

ダムからの放流によって川の水が増える時、国土交通省の車や川沿いのサイレンやスピーカーを鳴らしてお知らせします。

また、近隣の市町村と連絡を取り、ダムの操作についてお知らせします。

お住まいの昭和村役場からは、防災無線を通じてお知らせします。



○ ダムの洪水調節Q&A

Q. 異常洪水時とはどんなときですか。

A. ダムを計画した時以上の洪水が発生した時です。これ以上、ダムに貯めることが出来ず、**ダムに流れ込んだ量と同じ量**を下流に放流する状況となります。この放流を**異常洪水時防災操作(緊急放流)**といいます。

Q. 令和元年台風19号と同じ規模の洪水が今度来たら、ハッ場ダムは異常洪水時防災操作を行うのですか。

A. 令和元年10月の台風19号において、試験湛水中のハッ場ダムは流入量のほぼ全量をダムに貯留し、結果として7,500万m³の洪水を貯留しました。ハッ場ダムの洪水調節のルールは流入量が毎秒200m³から洪水調節を開始し、最大で毎秒3,000m³の流入があっても6,500万m³の空き容量に一部を貯留し、下流には毎秒1,000m³に減らして放流する計画としています。今後、台風19号規模の洪水が来ても、ルール通りに調節を行っていた場合には6,500万m³の空き容量に収まるものと考えております。

Q. ダムが出来たから、洪水になることはないのですか。

A. 計画よりも大きい洪水が発生した場合には、ダムの有無にかかわらず浸水被害が発生する恐れがあります。そのため、ダムの下流においては、「浸水想定図」を作成しており、まもなくホームページに掲載予定です。

お問い合わせ先

国土交通省利根川ダム統合管理事務所 TEL:027-251-2022

昭和村役場 総務課

TEL:0278-24-5111